

諸・麦糠サイレージ，諸・麦糠飼料及び切干甘藷による豚の飼養試験

栗原 武*・今村照久*

KURIHARA, T. & IMAMURA, T. Experiments on Feeding of Sweet Potatoes-Barley Bran Silage, Sweet Potatoes Barley Bran Meal and Dry Sweet Potatoes for Growing Pigs

同一材料を用いたいもぬかサイレージといもぬか飼料の飼養効果を比較し、併せて切干甘藷の給与方法をためすため昭和30年2月6日より5月17日まで當場において本試験を実施した。

試験方法 第1表の通りであるが、いもぬかサイレ

* 九州農業試験場

ージは麦仕上糠20，生甘藷80の重量比に詰込み、いもぬか飼料は同一配合のものを乾燥したものである。

なお、いもぬか飼料及び切干甘藷は粉碎して他の飼料配合として給与した。

試験成績 成績の概要は第2表の通りである。

即ち、(1) 試験豚の発育はB区において最も良好で

第1表 試験豚及び試験方法

区分	試験豚	試験期間	配合飼料(風乾比) %							配合飼料 のC.P.%	青草日量	給與日量 体重当 %
			供試飼料	数	大豆粕	魚粉	コ イ カル	塩				
A区	雑種♂1, ♀1 (生后120日)	100日	いもぬか サイレー ジ	60	16	14	10	2	0.5	21.0	0.5kg	1—50日 4.3% 51—100日 4.0%
B区	〃	〃	いもぬか 飼料	60	16	14	10	2	0.5	21.3	0.5	
C区	〃	〃	切干甘藷 麦仕上糠	48 12	16	14	10	2	0.5	18.7	0.5	

第2表 試験成績(各区2頭の平均)

区分	A区	B区	C区
試験開始時体重	37.80kg (102)	37.05kg (100)	36.95kg (100)
試験期間中の増体量	66.95 (92)	72.95 (100)	71.55 (98)
体重100kgに達した日令	204~224日 (107)	203~211日 (100)	200~215日 (101)
給與乾物量	236.174 (99)	239.709 (100)	239.692 (100)
1kg増体当乾物量	3.528 (107)	3.286 (100)	3.350 (102)
1kg増体当粗蛋白	0.846 (104)	0.813 (100)	0.722 (89)
屠肉率	70.8% (102)	69.5% (100)	70.8% (102)

() 内はB区を100とした場合の指数示す。

C区, A区の順となつてゐるが有意差はみとめられなかつた。(2) 1kg増体当り乾物量, 粗蛋白においても同様区間の差はみとめられず, 1kg増体当り飼料(風乾)量は3.8~4.0kgで該月令の標準3.8~4.6kgの範囲内にある。(3) 屠肉調査の結果, 屠肉率, 肉質において著しい差異はみとめられず, ただ脂肪の割合がC区においてやや多かつたが, 脂肪の質及びゆう点においては著しい差はみとめられなかつた。

なお, 今回のいも・麦ぬかサイレージによるA区と前回報告した(九州農業研究第16号)いも・米ぬかサイレージを用いて飼養した場合における脂肪のゆう点を比較すると麦ぬかを用了場合において高くなつてゐる。

以上の成績を要約すると, (1) 麦ぬか 20, 生甘藷

80の配合によるいもぬかサイレージと同一配合によるいもぬか飼料それぞれを60%給與による飼養効果は全く同様で, 切干甘藷給與飼料の48%配合した場合も同様な成績が得られた。

(2) 切干甘藷は一般に煮熟して給與されているが, 粉碎して, その緩下作用を防止するため麦糠を混用することが望ましい。

(3) 以上3種類の加工甘藷による豚の飼養効果には差異はみとめられなかつたが, 製造に要する努力等を考慮すれば, サイロを設置していもぬかサイレージにするのが最も合理性をもつが, サイロの設備のない場合には甘藷を粉碎してぬか類を混ぜいもぬか飼料にする方が乾燥も容易で給與も簡単な点から切干にするより合理的であろうと考えられる。